

第11節 動物

	項 目	概 要
調 査	動物の状況	調査目的 地域の動物(陸生動物(哺乳類、鳥類、は虫類・両生類及び昆虫類、クモ類))概況の把握
		既存資料の収集整理 [調査事項]○動物相の状況 ○重要な動物種の状況 ○注目すべき生息地の分布状況 [既存資料]○「平成8年度 河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」(1998年 (財)リバーフロント整備センター) ○「平成10年度 河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」(2000年 (財)リバーフロント整備センター) ○「平成11年度 河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」(2001年 (財)リバーフロント整備センター) ○「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」(平成10年8月 名古屋港管理組合・名古屋市) ○「庄内川・新川河口干潟調査会 第6回資料ーモニタリング調査結果データ集ー」(平成15年3月24日 国土交通省中部地方整備局庄内川工事事務所・愛知県河川工事事務所)
		現地調査 [調査事項]○動物相の状況 ○重要な動物の状況 [調査方法] 現地踏査 「自然環境アセスメント技術マニュアル」(1995年 (財)自然環境研究センター)に準拠 ○哺乳類 直接観察法、トラップ法 ○鳥類 ポイントセンサス法、直接観察法(日没後1時間の調査含む) 主要な水鳥の状況調査(陸域部の利用状況調査) 繁殖状況調査 ○は虫類・両生類 直接観察法 ○昆虫類 任意採集法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法 ○クモ類 任意採集法 [調査地点]○直接改変場所:事業予定地((約16ha) ○基礎資料:空見緑地(約1.5ha)、稲永公園(約10ha) ○事業予定地周辺における植物の生育環境の把握:隣接する東邦ガス株式会社空見環境センター敷地内の緑地(空見環境センター緑地) (図4-11-1～図4-11-2参照) (ただし、鳥類相、鳥類の繁殖状況調査は調査対象区域(陸域部)) [調査期間]○動物相調査及び主要な水鳥の状況調査 表4-11-1(1)～(2)参照 ○繁殖状況調査 平成16年6月11日

項 目		概 要
予 測	存在・供用時	動物への影響 [予測事項] ○現地調査の結果から直接改変を行う事業予定地及びその上空で確認された重要な動物種への影響 [予測条件] ○事業計画より敷地周囲約 20m を緑化し、施設全体供用時は敷地面積の約 30% (第 1 期施設供用時では 20% 以上) を緑地 ○現存植生を考慮した植栽種(高木、低木、草本類)を選定 [予測方法] 事業計画に基づく予測 [予測地点] 事業予定地 [予測時期] 施設供用時(本施設全体供用時及び第 1 期施設供用時)
	鳥類への影響	[予測事項] ○施設の稼働に伴う大気質、騒音、振動が注目すべき生息地(ラムサール条約登録湿地)を主要な生息環境とする鳥類(水鳥)へ与える影響 [予測条件] ○定期的な補修工事、機能検査、機器の点検等の実施 [予測条件] ○大気質、騒音及び振動の環境要素ごとの予測条件による [予測方法] 大気質、騒音及び振動の予測結果から推計 [予測地点] ラムサール条約登録湿地 [予測時期] 施設供用時(本施設全体供用時及び第 1 期施設供用時)
	工事中	鳥類への影響 [予測事項] 工事中(建設工事及び工事関連車両の走行)の大気質、騒音、振動が注目すべき生息地(ラムサール条約登録湿地)に生息する鳥類(水鳥)へ与える影響 [予測条件] ○工事関連車両を分散させる走行ルートを選定及び工程管理の徹底 ○大気質、騒音及び振動の環境要素ごとの予測条件による [予測方法] 大気質、騒音及び振動の予測結果から推計 [予測地点] ラムサール条約登録湿地 [予測時期] 工事中(建設工事及び工事関連車両の走行が最大となる時期)

表 4-11-1(1) 動物相調査の調査時期

調査対象	平成 16 年				備考
	冬季	春季	夏季	秋季	
哺乳類	1 月 29～30 日	5 月 6～7 日	7 月 26～27 日	10 月 7～8 日	—
鳥 類	1 月 29～30 日	5 月 6～7 日	7 月 26～27 日	10 月 12～13 日	—
は虫類・両生類	1 月 29 日	5 月 6 日	7 月 26 日	10 月 7 日	—
昆虫類	1 月 29 日	5 月 6～7 日	7 月 26～27 日	10 月 7～8 日 10 月 12 日	冬季調査では任意採集調査のみ実施した。
クモ類	1 月 29 日	5 月 6 日	7 月 26 日	10 月 7 日	—

表 4-11-1(2) 主要な水鳥の状況調査の調査時期

調査時期		調査時間帯(潮の干満)		
		早朝	昼間	夕刻
越冬期	平成 16 年 1 月 29 日	7:00～9:00 (満潮)	11:00～13:00 (満潮)	15:15～17:15 (干潮)
春の渡り 時期	平成 16 年 4 月 12 日	5:30～7:30 (満潮)	12:00～14:00 (干潮)	16:00～18:00 (干潮)
	平成 16 年 5 月 6 日	5:30～7:30 (満潮)	12:00～14:00 (干潮)	16:30～18:30 (満潮)
	平成 16 年 6 月 10 日	5:00～7:00 (干潮)	11:00～13:00 (満潮)	16:30～18:30 (干潮)
秋の渡り 時期	平成 16 年 8 月 16 日	5:30～7:30 (満潮)	11:00～13:00 (干潮)	16:30～18:30 (満潮)
	平成 16 年 9 月 17 日	6:00～8:00 (満潮)	12:00～14:00 (干潮)	16:00～18:00 (満潮)
	平成 16 年 10 月 12 日	6:00～8:00 (満潮)	11:00～13:00 (干潮)	15:30～17:30 (満潮)

注) 調査時間帯の満潮・干潮は、調査を行った時間帯の大まかな潮汐状態(名古屋港)を示す。

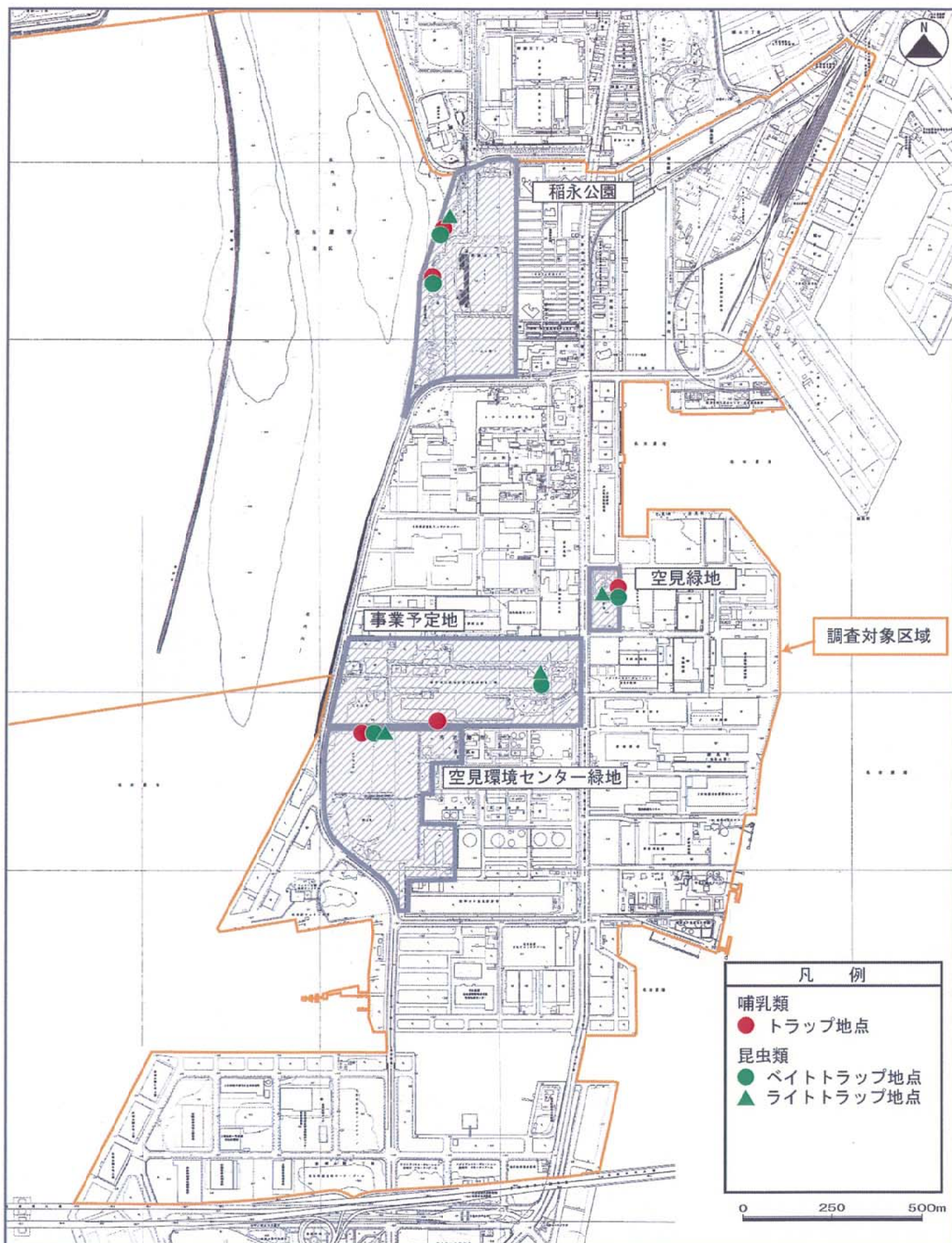


図4-11-1 調査範囲及び調査地点（鳥類を除く陸生動物）

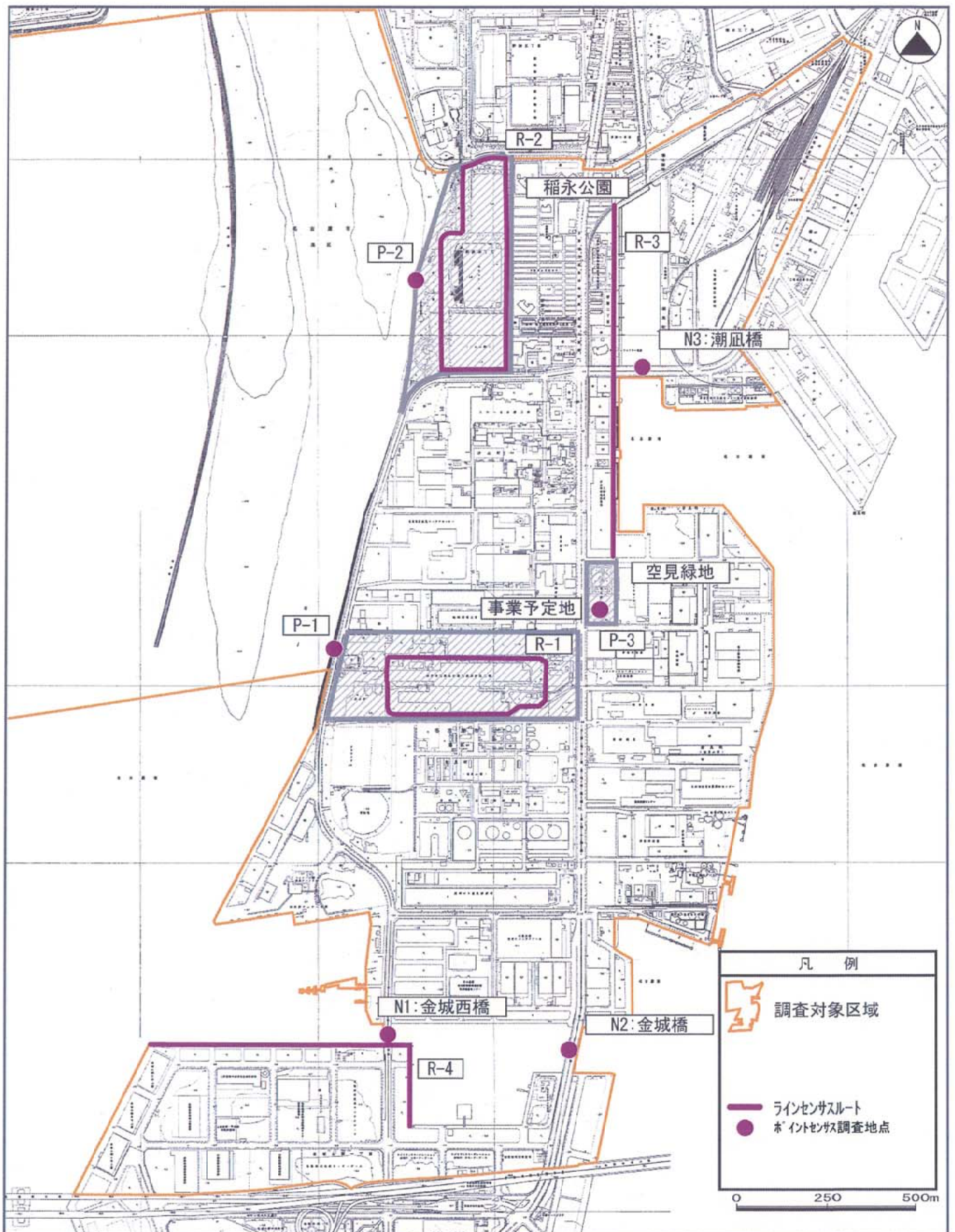


図4-11-2 調査範囲及び調査地点（鳥類）

1 調査結果の概要

調査は資料調査及び現地調査により行った。

調査対象区域のうち、資料調査により主にラムサール条約登録湿地の鳥類を調査し、現地調査により調査対象区域(陸域部)の動物(哺乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類及びクモ類)を調査した。なお、現地調査の鳥類は事業予定地の西側護岸から水域100m以内での出現種も調査対象とした。

1-1 資料調査

確認された主な種の生態特性等は表 4-11-2 に示すとおりである。

哺乳類が4目6科11種、は虫類が2目4科6種、両生類が1目2科6種、昆虫類が16目172科590種、クモ類が1目17科84種確認されている。

なお、事業予定地の西側の水域にはラムサール条約登録湿地である藤前干潟が存在し、鳥類(主に水鳥)の重要な生息地となっていることから、特に、鳥類に関する調査結果についてまとめると以下に示すとおりである。

鳥類は18目38科173種が確認されており、そのうち重要な種は50種である。

確認種は水域において、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、マガモ、スズガモ、コチドリ、ダイゼン、ハマシギ、オオソリハシシギ、コアジサシ等の水鳥が多く確認されているほか、ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ等の猛禽類も確認されている。

水域では干潮時に出現する広大な藤前干潟が採餌場所として、また、満潮時には人の近づけない導流堤が休息場所として利用されており、干潟環境を利用する水鳥にとって渡り途中の中継地及び越冬地として極めて重要な場所となっている。

ラムサール条約登録湿地における主な水鳥であるサギ類、カモ類、チドリ類及びシギ類の生息特性は多種多様であり、春季と秋季に当地域を渡りの中継地として利用する旅鳥、冬季に飛来し越冬地として利用する冬鳥、年間を通して生息する留鳥等がみられ季節的变化が大きい。

特に、遊泳能力に乏しく満潮時に水域から離れ陸上で休息しなければならないシギ・チドリ類は5月と9月を中心に最も多く見られる(「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」より確認)。

一方、陸域ではキジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス等市街地や農耕地に多く生息する種が確認されている。

表 4-11-2 資料調査で確認された主な種の生態特性等

項目	主な種	生態特性	生息環境	生息時期
哺乳類	アブラコウモリ	上空飛翔を飛翔し採食	住家性	1年中
	クマネズミ、ドブネズミ	都市環境に適応	住家性、草地性	1年中
鳥類	陸域(スズメ、ムクドリ、キジバト、ツバメ等)	春から初夏にかけて緑地で繁殖	草地性、樹林性	1年中
	海域(ダイサギ、マガモ、ダイゼン、ハマシギ等)	旅鳥は春、秋に集中、冬鳥は越冬	干潟環境に生息	1年中
両生・は虫類	カナヘビ	都市の緑地にも生息	草地性	春～秋
	ウシガエル	様々な水域に適応	水辺に生息	春～秋
昆虫類	シオカラトンボ、ショウジョウバエ、モンシロチョウ等	都市の緑地にも生息	草地性、樹林性	春～秋
クモ類	ナガコガネクモ、シロウグモ等	都市の緑地にも生息	草地性、樹林性	春～秋

1-2 現地調査

(1) 哺乳類

2目2科3種の哺乳類が確認された。

アブラコウモリは事業予定地、稲永公園、空見緑地の各地点で上空を飛翔する多数の個体が確認された。

ハツカネズミは事業予定地でトラップにより1個体が捕獲された。
クマネズミ属の一種は事業予定地と空見緑地で目視により各1個体ずつ確認された。
確認種はいずれも住家性の小型哺乳類であった。

(2) 鳥 類

ア 鳥類相

調査対象区域(陸域部)と護岸から100m以内での出現種は11目26科79種の鳥類が確認された(資料調査において鳥類は18目38科173種が確認されている)。

79種のうち主に導流堤でカイツブリ類、カワウ、サギ類、カモ類、チドリ類、シギ類、カモメ類の合計45種が出現し、飛翔、採餌、休息する様子が確認された。

また、主に調査対象区域(陸域部)で都市部でも普通にみられるドバト、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス等が多くみられ、飛翔、休息する様子が確認された。

これらに加え、同場所でミサゴ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ等の猛禽類も出現した。そのほか、ツツドリ、サンショウクイ、キビタキ等が確認された。

日没後の1時間程度行った調査では稲永公園でゴイサギ、アオサギ、スズガモの飛翔個体が少数確認されたのみで、夜行性のフクロウ類やヨタカ等の重要な種は確認されなかった。

イ 主要な水鳥の状況

(ア) 出現種の概要

陸域部から確認された主要な水鳥の状況は36種が確認された。

種数ではシギ類が全体の41.7%(15種)で最も多く、次いでカモ類の27.8%(10種)の順であった。

(イ) 出現状況の概要

調査対象区域内の陸域部ではサギ類はササゴイ(1羽)とアオサギ(2羽)、チドリ類はコチドリ(6羽)、シロチドリ(1羽)、ダイゼン(3羽)、ケリ(5羽)、シギ類はキアシシギ(1羽)の計7種19羽のみであり、陸域部の利用するものはごくわずかであった。

出現状況の結果は事業予定地内での確認はチドリ類(ケリ、コチドリ)が数個体休息する様子が確認された。また、サギ類、カモ類及びシギ類は事業予定地での上空の飛翔を確認した。

なお、特定の植物(植生)に依存している水鳥は確認されなかった。

(ウ) 出現種数・個体数の季節的变化

各グループの出現種数の月別変化は5月と9月にピークがみられた。これは主に旅鳥であるシギ類、チドリ類が春と秋の渡りの途中に立ち寄ったためであると考えられる。また、6月は最も種数が少ないが、これは出現種の大部分が冬鳥及び旅鳥であり、これらの種の渡去時期に当たるためと考えられる。

各グループの出現個体数の月別変化は1月と10月に多かった。これは冬鳥のカモ類の個体数が反映されたもので秋～冬季にラムサール条約登録湿地がカモ類の集団越冬地として利用されていると考えられる。また、春季(5月)にも個体数が増加しているが、これはシギ類のハマシギの動向によるもので、渡りの中継地として多くの個体が訪れたためである。

(エ) 時間帯別潮汐別の行動パターンの概要

早朝及び夕刻に調査対象区域の陸域部を集団でねぐらにしているような行動は全く確認されなかった。

なお、事業予定地、稲永公園及び空見緑地では、日没後の1時間程度行った調査においても、休息する個体や群れは確認されなかった。

満潮時には各グループの多くは庄内川河口部の導流堤や調査対象区域北部の庄内川左岸堤防の汀線近くで休息し、干潮時には出現した干潟に広がって主に採餌しているのが確認された。なお、満潮時に事業予定地内や稲永公園等の陸域で確認されたのは、コチドリ(上空飛翔:1羽、事業予定地内の草地で休息:2羽)、ハマシギ(上空飛翔:56羽)、ケリ(工場内のグラウンド:1羽)、ダイサギ(上空飛翔:1羽)、カルガモ(上空飛翔:2羽)、ダイゼン(岸壁で休息:1羽)、アオサギ(上空飛翔:3羽)であり、まとまった群れが休息地として利用している様子はみられなかった。

ウ 繁殖状況調査結果

繁殖状況調査結果は11種の繁殖及び繁殖兆候が確認された。巣が確認された種はスズメとキジバトで稲永公園の植栽樹上での確認がほとんどであった。

事業予定地では繁殖及び繁殖兆候は確認されなかった。

(3) は虫類・両生類

は虫類の調査結果は、1目2科2種が確認された。

出現個体はカナヘビが事業予定地の草地で5個体、空見環境センター緑地の草地で2個体確認された。また、シマヘビが事業予定地の低木林縁で2個体、空見環境センター緑地の貯水池脇で1個体確認されたほか、空見緑地で死骸1個体を確認された。

両生類では、1目2科2種が確認された。

出現個体はアマガエルが稲永公園の植栽林縁で2個体鳴き声により確認された。また、ウシガエルが空見環境センター緑地の水路や貯水池で、成体1個体、幼体10個体、鳴き声4個体確認された。

(4) 昆虫類

調査結果は、14目149科441種の昆虫類が確認された。

出現種としてはコウチュウ目(145種)、カメムシ目(67種)、ハエ目(62種)、ハチ目(56種)、チョウ目(51種)が大部分を占め、明るく開けた草地環境を好む種が多く確認された。出現種のほとんどは県内の平野部に普通にみられる種であった。

(5) クモ類

調査結果から1目18科87種のクモ類が確認された。

出現種としては、カニグモ類、ハエトリグモ類等の地上徘徊性のクモ類や、コガネグモ類、アシナガグモ類等の造網性の種が確認された。出現種のほとんどは県内各地に普通にみられる種であった。

(6) 重要な動物種及び注目すべき生息地

重要な動物種は表4-11-3、図4-11-3(1)～(5)に示すとおり21種が確認された。

鳥類の重要な動物種は17種であり、事業予定地内ではミサゴ及びハヤブサの飛翔が確認された。

は虫類、昆虫類及びクモ類の重要な動物種は事業予定地及び空見緑地等で確認され

た。

また、注目すべき生息地としては、水鳥が多く生息・飛来する、事業予定地の西側に隣接する「ラムサール条約登録湿地：藤前干潟」が考えられる。

表 4-11-3 重要な動物種

区分	和名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
鳥 類	ミサゴ			NT	NT	NT
	ハイタカ			NT	NT	NT
	ハイイロチュウヒ				NT	
	ハヤブサ		国内	VU	EN	VU
	シロチドリ					VU
	ダイゼン				LP	
	ウズラシギ				VU	VU
	ハマシギ				LP	
	コオバシギ				NT	
	オバシギ				NT	
	オグロシギ				VU	VU
	オオソリハシシギ				NT	VU
	ダイシャクシギ				NT	NT
	ホウロクシギ			VU	VU	VU
	コアジサシ		国際	VU	NT	VU
	ツツドリ				NT	
	サンショウクイ			VU	VU	VU
爬虫類	シマヘビ					NT
昆虫類	ニイニイゼミ					NT
クモ類	コガネグモ				NT	NT
	ゲホウグモ				NT	VU
	21種	0種	2種	6種	18種	15種

〈選定基準〉

- ① 「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号）に基づく国指定天然記念物
「愛知県文化財保護条例」（昭和30年 条例第6号）に基づく県指定天然記念物
「名古屋市文化財保護条例」（昭和47年 条例第4号）に基づく市指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号）
に基づく希少野生動植物種
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③ 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－哺乳類」（2002年3月 環境省）、
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－鳥類」（2002年8月 環境省）、
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－爬虫類・両生類」（2000年2月 環境庁）、
「無脊椎動物（昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等）のレッドリストの見直しについて」（平成12年 4月12日 環境庁）に掲載された種
「VU」絶滅危惧Ⅱ類、「NT」準絶滅危惧種
- ④ 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち－動物編－」（平成14年3月 愛知県）に掲載された種
「EN」絶滅危惧ⅠB類、「VU」絶滅危惧Ⅱ類、「NT」準絶滅危惧種、
「LP」地域個体群（藤前干潟及び庄内川河口周辺の越冬群）
- ⑤ 「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2004－動物編－」（平成16年3月 名古屋市）に掲載された種
「VU」絶滅危惧Ⅱ類、「NT」準絶滅危惧

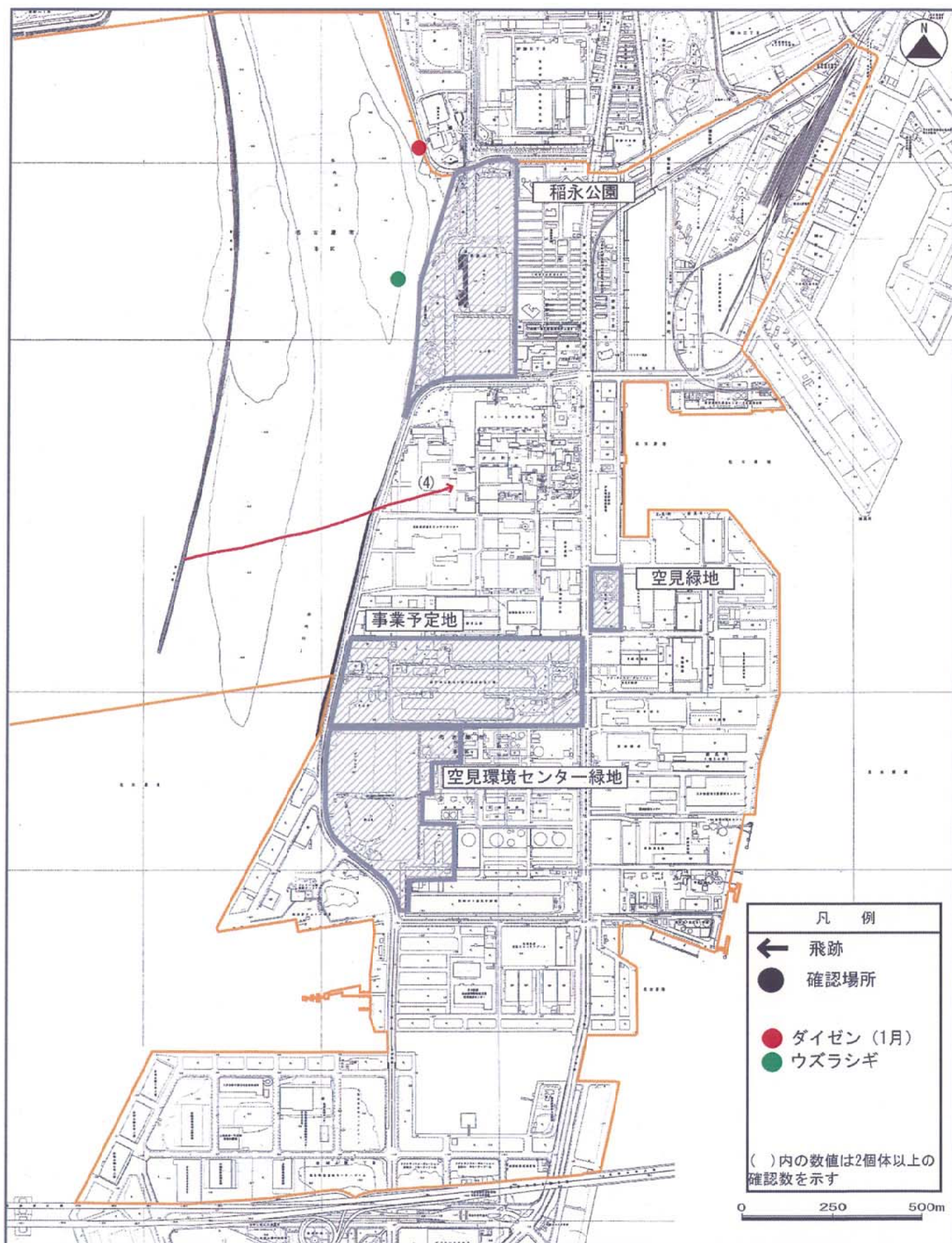


図4-11-3(2) 重要な動物種の確認地点図 (2/5)

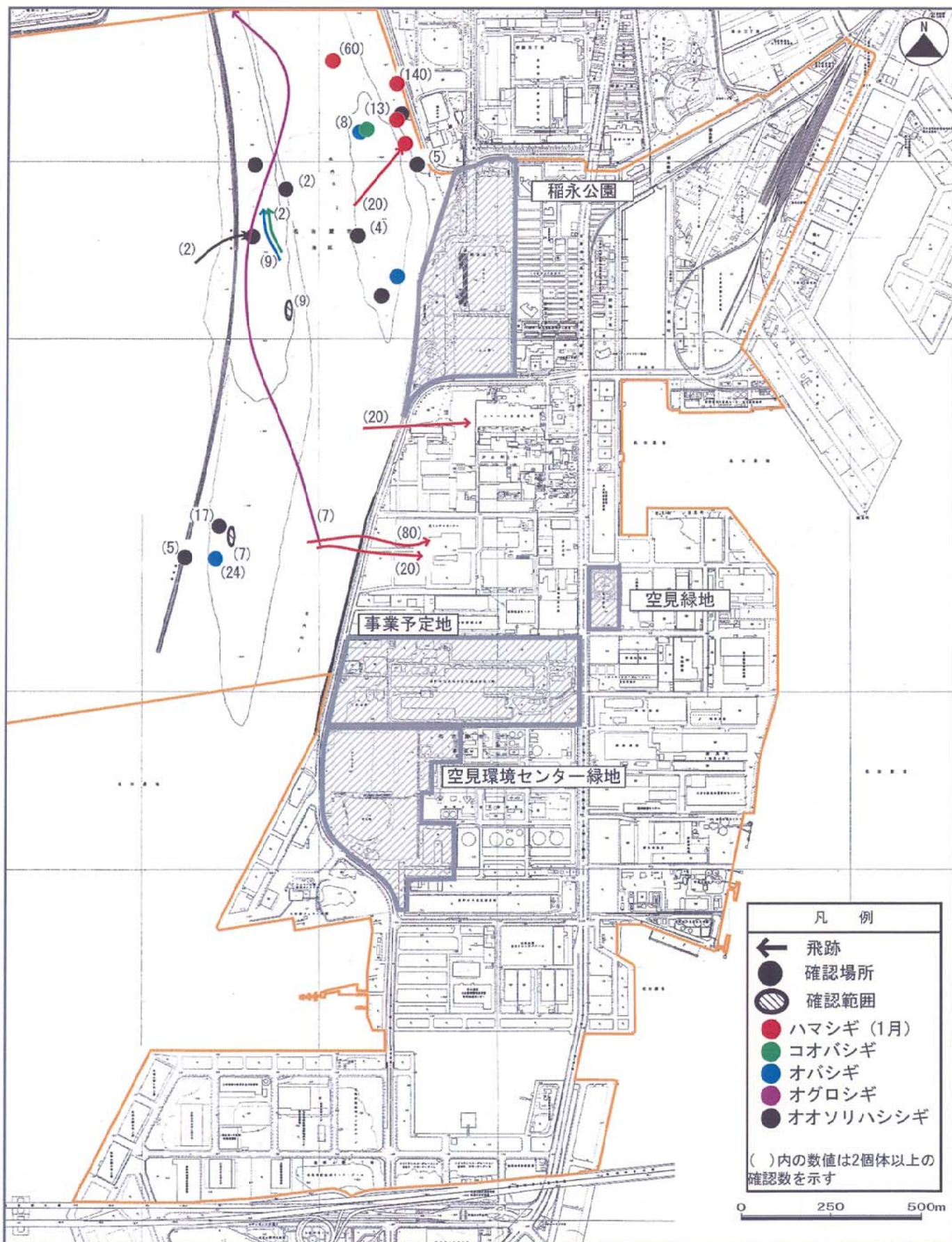


図4-11-3(3) 重要な動物種の確認地点図 (3/5)

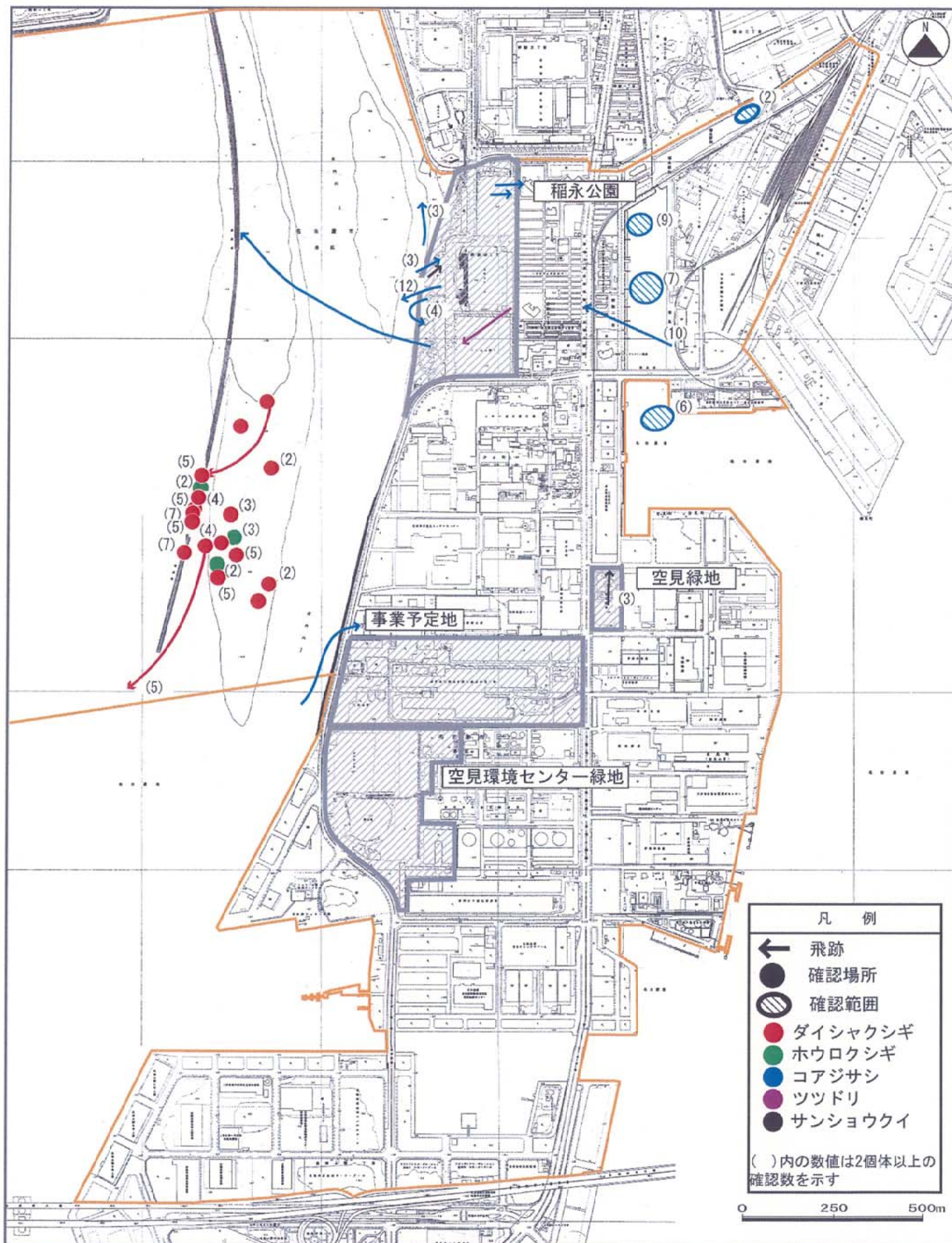


図4-11-3(4) 重要な動物種の確認地点図 (4/5)

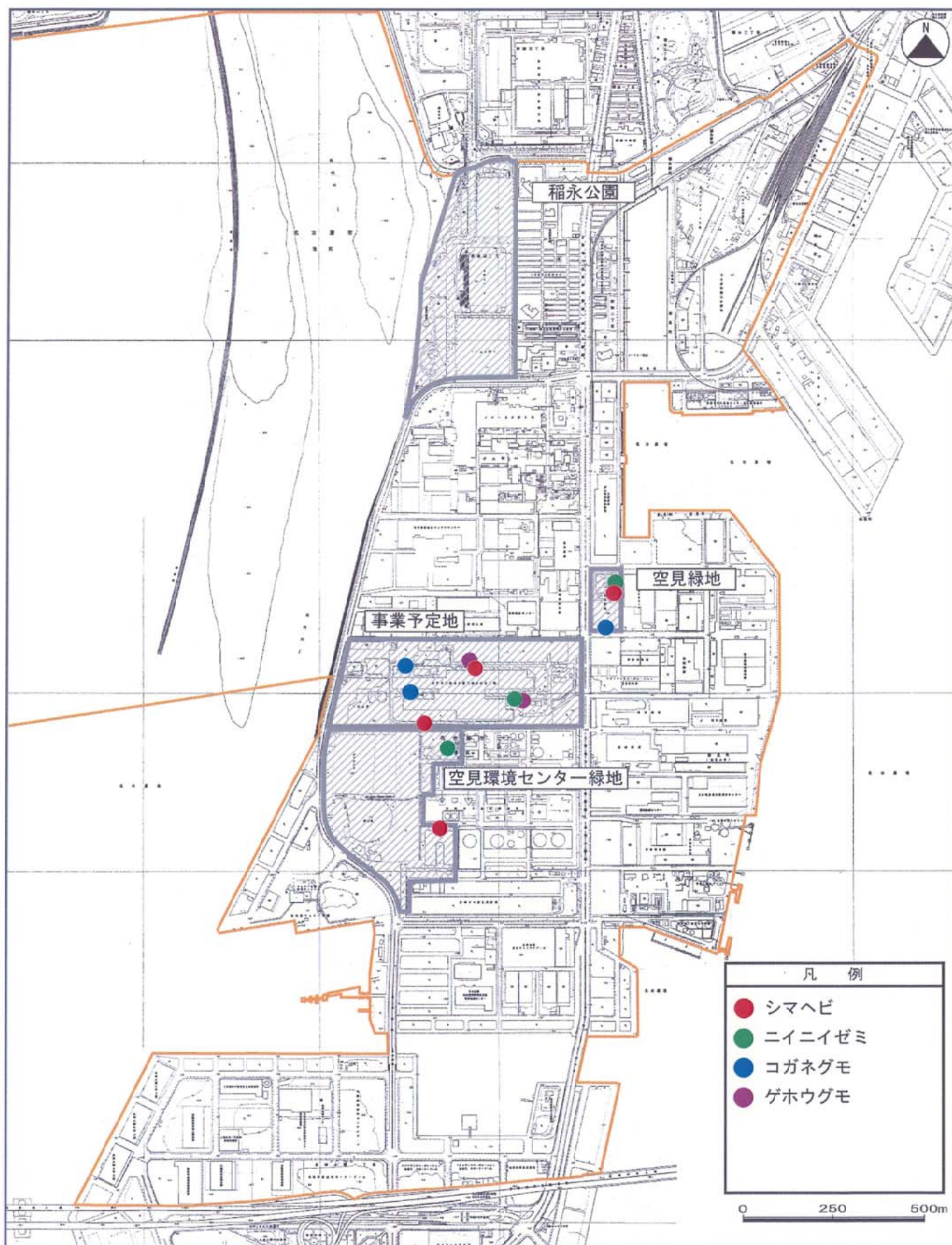


図4-11-3(5) 重要な動物種の確認地点 (5/5)

2 予測及び評価（存在・供用時）

2-1 動物への影響

(1) 予測結果

事業予定地では鳥類2種(ミサゴ、ハヤブサ)、は虫類1種(シマヘビ)、昆虫類1種(ニイニイゼミ)、クモ類2種(コガネグモ、ゲホウグモ)が確認された。それぞれの予測結果は以下に示すとおりである。

ア 鳥類

予測結果は表 4-11-4(1)～(2)に示すとおりである。

表 4-11-4(1) 鳥類予測結果(1)

ミサゴ	
一般生態	日本では、九州以北で繁殖し周年生息する。海岸や湖沼に生息し、岩棚上や大木の梢に営巣する。水面上で停空飛翔をしてねらいを定め、急降下して中・大型の魚をつかみ取る。
愛知県内の分布	愛知県では、主に冬期に伊勢湾・三河湾沿岸、少数は大きな河川や湖沼でも見られ、繁殖例もある。名古屋市港区の庄内川、新川、日光川河口付近では近年周年生息している。
現地での確認状況	現地調査では、冬季及び秋季に、主に庄内川河口部上空を飛翔する個体が計8羽確認され、事業予定地で1羽確認された。河口部で採餌する個体や、餌を掴んで飛翔する個体も確認されており、庄内川河口周辺を採餌場として利用していると考えられる。
予測結果	現地調査の結果、事業予定地で採餌、休息する個体は確認されず、事業予定地周辺には営巣に適した環境も存在しなかった。事業予定地では主に上空を飛翔する個体の確認であった。よって、本種への影響はほとんどないと予測される。

表 4-11-4(2) 鳥類予測結果(2)

ハヤブサ	
一般生態	日本では、北海道、本州、佐渡、九州等の主として海岸沿いで繁殖し、冬期の記録はほぼ全国に広がっている。沿岸部の人が近寄れない崖・岩場で繁殖し、主に鳥類を捕食する。
愛知県内の分布	愛知県では、冬期には、伊勢湾・三河湾の沿岸や、庄内川、矢作川、豊川の河川敷等主に水辺近くに生息する。名古屋市へは旅鳥または冬鳥として渡来し、ラムサール条約登録湿地では見る機会が多い。
現地での確認状況	現地調査では、冬季及び秋季に、調査対象区域内上空から庄内川河口部上空にかけて飛翔する個体が計5羽確認された。このうち、秋季に確認された2羽は雄と雌のペアで、庄内川河口の干潟で狩り(ダイゼンを捕食)を行った。繁殖期に確認されていないことから、庄内川河口周辺を秋季から冬季の採餌場として利用していると考えられる。
予測結果	現地調査の結果、事業予定地で採餌、休息する個体は確認されず、事業予定地周辺には営巣に適した環境も存在しなかった。事業予定地では主に上空を飛翔する個体の確認であった。よって、本種への影響はほとんどないと予測される。

イ は虫類、昆虫類及びクモ類

予測結果は表 4-11-4(3)～(6)に示すとおりである。

表 4-11-4(3) は虫類予測結果

シマヘビ	
一般生態	日本では、北海道、本州、四国、九州に分布する。社寺林、河川等多くの緑地に広く分布しており、日の当たる場所で目にする機会が多い。地表で生活し、両生類、は虫類、小型の哺乳類等様々な動物を食べる。
愛知県内の分布	愛知県では、平野部から山地にかけて分布する。名古屋市内では、社寺林や河川敷等市内全域で見られるが少ない。
現地での確認状況	現地調査では、事業予定地で 2 個体(成体)、空見緑地で 1 個体(死骸殻)、空見環境センター緑地で 1 個体(成体)が確認された。調査対象区域内には本種の生息に適した、まとまった緑地や水辺環境が乏しいため、生息数は少ないと推測されるが、空見環境センター緑地を中心として、それに隣接する事業予定地にわずかに生息しているものと考えられる。
予測結果	施設の存在により本種の主要な生息環境である雑多な草地環境の一部が消失するが、周辺地域の公園や工場敷地内に生息に適した樹林地が存在する。また、周辺植生との連続性を考慮し、敷地周囲約 20mを緑化してまとまった緑地とすることから、本種への影響はほとんどないと予測される。

表 4-11-4(4) 昆虫類予測結果

ニイニイゼミ	
一般生態	日本では、北海道、本州、四国、九州、沖縄以北の琉球列島に分布する。かつては小さな林でも木々のある場所なら何処でも生息していた。地中生活する幼虫の期間は、4年程と推定されている。
愛知県内の分布	愛知県では、平野部から山地にかけて広く分布する。名古屋市内では、残された林に点在的に見られるが、近年急激に少なくなっている。
現地での確認状況	現地調査では事業予定地で 1 個体(鳴き声)、空見緑地で 1 個体(抜け殻)、空見環境センター緑地で 1 個体(鳴き声)が確認された。調査対象区域内では公園や工場敷地内に残された樹林地を中心に少数が生息しているものと考えられる。
予測結果	施設の存在により本種の主要な生息環境である樹林地が消失するが、周辺地域の公園等に生息に適した樹林地が存在するから、本種への影響はほとんどないと予測される。

表 4-11-4(5) クモ類予測結果(1)

コガネグモ	
一般生態	日本では、本州(関東南部以南)、四国、九州、南西諸島に分布する。南方系のクモ類で、草地環境に生息し、草や木の枝の間や軒下等に垂直円網を張る。一般的に日当たりのよいところに多い。
愛知県内の分布	愛知県には広く分布しているが減少傾向にある。名古屋市内では、近年急速に減少しているが、守山区、中村区の草地には多い。
現地での確認状況	現地調査では、事業予定地で 2 個体、空見緑地で 1 個体が確認された。一方、緑地が存在するもののその管理が徹底された稲永公園では、本種は確認されなかった。このことから、本種は調査対象区域内では工場敷地内等における高茎草地や低木林が混在した雑多な緑地環境を中心に生息していると考えられる。
予測結果	施設の存在により本種の主要な生息環境である雑多な草地環境の一部が消失するが、周辺地域の公園等に生息に適した樹林地が存在する。また、周辺植生との連続性を考慮し、敷地周囲約 20mを緑化してまとまった緑地とすることから、本種への影響はほとんどないと予測される。

表 4-11-4(6) クモ類予測結果(2)

ゲホウグモ	
一般生態	日本では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。昼は脚を縮めて枯れ枝等の先端に止まっていることが多い。夜は樹間等に円網を張り活動する。
愛知県内の分布	愛知県では、豊田市、豊川市、音羽町等に分布する。名古屋市内では、東部地区の千種区、名東区、守山区に生息している。都市公園やその付近の住宅の庭等に多い。
現地での確認状況	現地調査では、事業予定地で 2 個体が確認された。コガネグモと同様に、緑地管理が徹底された稲永公園や空見緑地では、本種は確認されなかったことから、調査対象区域内では、工場敷地内等における高茎草地や低木林が混在した雑多な緑地環境を中心に生息していると考えられる。
予測結果	施設の存在により本種の主要な生息環境である雑多な草地環境の一部が消失するが、周辺地域の公園等に生息に適した樹林地が存在する。また、周辺植生との連続性を考慮し、敷地周囲約 20m を緑化してまとまった緑地とすることから、本種への影響はほとんどないと予測される。

(2) 環境の保全のための措置

- ・ 樹林地は樹木の成長を自然の推移に任せるとともに下草刈り・農薬散布等の管理の程度を粗放的に行い、対象種(は虫類:シマヘビ、昆虫類:ニイニイゼミ、クモ類:コガネグモ、ゲホウグモ)の生息に適した環境を確保する。

(3) 評価

重要な動物種(鳥類:ミサゴ、ハヤブサ)は事業予定地で採餌、休息する個体は確認されず、事業予定地周辺には営巣に適した環境も存在しなかった。また、事業予定地では主に上空を飛翔する個体の確認であり、重要な動物種に与える影響はほとんどないとする。

施設の存在に伴い重要な動物種(は虫類:シマヘビ、昆虫類:ニイニイゼミ、クモ類:コガネグモ、ゲホウグモ)の主要な生息環境である樹林地及び雑多な草地環境の一部が消失するが、周辺地域の公園や工場敷地内に生息に適した樹林地が存在し、重要な動物種に与える影響はほとんどないと予測されることから、施設の存在に伴う動物(重要な動物種)への影響は軽微であるとする。

また、緑地の植生について下草刈り・農薬散布等の管理の程度を粗放的に行い、重要な動物種(は虫類:シマヘビ、昆虫類:ニイニイゼミ、クモ類:コガネグモ、ゲホウグモ)の生息に適した環境を確保することから、施設の存在に伴う動物(重要な動物種)への影響が低減できるものと判断する。

2-2 鳥類への影響

(1) 予測結果

ア 施設の稼働(大気質)に伴う鳥類(水鳥)への影響

大気質の予測結果からラムサール条約登録湿地の大気質寄与濃度(年平均値)は表 4-11-5(1)に示すとおりであり、現況濃度に対して相当程度小さいことから、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。

環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-5(1) 大気質(年平均値)予測結果

予測項目	予測時期	寄与濃度	現況濃度 (年平均値)
二酸化硫黄 (ppm)	本施設全体供用時	0.00005未満	0.009
	第1期施設供用時	0.00001未満	
窒素酸化物 (ppm)	本施設全体供用時	0.00010未満	0.046
	第1期施設供用時	0.00003以下	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	本施設全体供用時	0.00001以下	0.036
	第1期施設供用時	0.00001未満	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	本施設全体供用時	0.00010以下	0.16
	第1期施設供用時	0.00003以下	

注)現況濃度(年平均値)は現地調査結果における全期間平均値とした。

イ 施設の稼働(騒音)に伴う鳥類(水鳥)への影響

騒音の予測結果からラムサール条約登録湿地の騒音は表 4-11-5(2)に示すとおりであり、敷地境界の最大値出現地点は事業予定地北側であるが、西側敷地境界付近では本施設全体供用時に 55dB 未満、第1期施設供用時に 45dB 未満と予測される。

ラムサール条約登録湿地方向への伝搬は距離減衰が見込まれることから、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。

環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-5(2) 騒音予測結果

予測項目	予測時期	予測結果	環境騒音	
			L _{A95}	L _{A5}
騒音値(dB)	本施設全体供用時	55未満	(平日)43~49 (休日)34~46	(平日)43~71 (休日)46~59
	第1期施設供用時	45未満		

注)環境騒音は現地調査結果における敷地境界西側地点(No1-2)の値とした。

ウ 施設の稼働(振動)に伴う鳥類(水鳥)への影響

振動の予測結果からラムサール条約登録湿地の振動は表 4-11-5(3)に示すとおりで

あり、敷地境界の最大値出現地点は事業予定地北側であるが、西側敷地境界付近では本施設全体供用時に 50dB 未満、第 1 期施設供用時に 30dB 未満と予測される。

ラムサール条約登録湿地方向への伝搬は距離減衰が見込まれることから、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。

環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-5(3) 振動予測結果

予測項目	予測時期	予測結果	環境振動	
			L ₉₀	L ₁₀
振動値(dB)	本施設全体供用時	50未満	(平日)37以下 (休日)30未満	(平日)49以下 (休日)30未満
	第1期施設供用時	30未満		

注) 環境振動は現地調査結果における敷地境界西側地点 (No1-2) の値とした。

(2) 環境の保全のための措置

- ・事業予定地の護岸部側の境界に緑地を施す。
- ・定期的な補修工事、機能検査、機器の点検等を実施し、施設の性能を維持する。

(3) 評 価

大気質、騒音及び振動の現況との変化の程度は軽微と考えられる。環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、施設の稼働に伴う鳥類(水鳥)への影響は小さいと考える。

また、護岸部側の境界に緑地を施す等の措置を講じることから、施設の稼働に伴う鳥類(水鳥)への影響は低減できるものと判断する。

3 予測及び評価(工事中)

3-1 鳥類への影響

(1) 予測結果

ア 建設工事(大気質)の鳥類(水鳥)への影響

大気質の予測結果からラムサール条約登録湿地の大気質寄与濃度(年平均値)は表 4-11-6(1)に示すとおりであり、現況濃度に対して相当程度小さいことから、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-6(1) 大気質(年平均値)予測結果

予測項目	予測時期	寄与濃度	現況濃度 (年平均値)
窒素酸化物 (ppm)	土木・建築工事 (既設地下構造物撤去)	0.001以下	0.046
	土木・建築工事	0.001未満	
	設備工事	0.001未満	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	土木・建築工事 (既設地下構造物撤去)	0.0001以下	0.036
	土木・建築工事	0.0001未満	
	設備工事	0.0001未満	

注) 現況濃度(年平均値)は現地調査結果における全期間平均値とした。

イ 建設工事(騒音)の鳥類(水鳥)への影響

建設作業騒音の予測結果からラムサール条約登録湿地の騒音は表 4-11-6(2)に示すとおりであり、敷地境界の最大値出現地点は事業予定地北側及び南側であるが、西側敷地境界付近では 60dB 未満と予測される。

ラムサール条約登録湿地方向への伝搬は距離減衰が見込まれることから、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。

環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-6(2) 騒音予測結果

予測項目	予測時期	予測値	環境騒音	
			L _{A95}	L _{A5}
騒音値(dB)	土木・建築工事 (既設地下構造物撤去)	60未満	(平日) 43~49 (休日) 34~46	(平日) 43~71 (休日) 46~59
	土木・建築工事	55未満		
	設備工事	60未満		

注) 環境騒音は現地調査結果における敷地境界西側地点(No1-2)の値とした。

ウ 建設工事(振動)の鳥類(水鳥)への影響

建設作業振動の予測結果からラムサール条約登録湿地の振動は表 4-11-6(3)に示すとおりであり、敷地境界の最大値出現地点は事業予定地東側及び南側であるが、西側敷地境界付近では 30dB 未満と予測される。

ラムサール条約登録湿地方向への伝搬は距離減衰が見込まれることから、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。

環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-6(3) 振動予測結果

予測項目	予測時期	予測値	環境振動	
			L ₉₀	L ₁₀
振動値(dB)	土木・建築工事 (既設地下構造物撤去)	30未満	(平日) 37以下 (休日) 30未満	(平日) 49以下 (休日) 30未満
	土木・建築工事	30未満		
	設備工事	30未満		

注) 環境振動は現地調査結果における敷地境界西側地点(No1-2)の値とした。

エ 工事関連車両の走行の鳥類(水鳥)への影響

工事関連車両の走行に伴う大気質、騒音及び振動の予測結果から、ラムサール条約登録湿地の寄与濃度及び予測結果は表 4-11-6 (4)～(6)に示すとおりであり、現況の状態との変化の程度は軽微と考えられる。

環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、鳥類(水鳥)への影響は小さいと予測される。

表 4-11-6 (4) 工事関連車両の走行に伴う大気質予測結果

予測項目	寄与濃度	現況濃度
窒素酸化物(ppm)	0.0008 以下	0.351
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.00008 以下	0.162

注 1) 現況濃度は現地調査結果における汐止交差点付近の 1 時間値最大値とした。

注 2) 予測地点は沿道大気予測の地点(C地点(庄内川付近))とした。

表 4-11-6 (5) 工事関連車両の走行に伴う交通騒音予測結果

予測項目	予測結果	道路交通騒音	
		L _{A95}	L _{A5}
騒音値(dB)	1.2 以下	(平日)43～49 (休日)34～46	(平日)43～71 (休日)46～59

注 1) 現況道路交通騒音は現地調査結果における敷地境界西側地点(No1-2)の値とした。

注 2) 予測地点は沿道大気予測の地点(C地点(庄内川付近))とした。

表 4-11-6 (6) 工事関連車両の走行に伴う交通振動予測結果

予測項目	予測結果	道路交通振動	
		L ₉₀	L ₁₀
振動値(dB)	0.7 以下	(平日)37 以下 (休日)30 未満	(平日)49 以下 (休日)30 未満

注 1) 現況道路交通振動は現地調査結果における敷地境界西側地点(No1-2)の値とした。

注 2) 予測地点は沿道大気予測の地点(C地点(庄内川付近))とした。

(2) 環境の保全のための措置

- ・作業待機中は建設機械を停止する等、アイドリングストップを徹底する。
- ・建設機械の配置の分散に努める。

(3) 評価

大気質、騒音及び振動の現況との変化の程度は軽微と考えられる。環境の変化による一時的な忌避行動は否定できないが、生息環境を大きく変えるものではなく、工事中の鳥類(水鳥)への影響は小さいと考える。

また、作業待機中は建設機械を停止する等、アイドリングストップを徹底し、建設機械の配置の分散に努めることから、工事中の鳥類(水鳥)への影響は低減できるものと判断する。